

アルムとアプライド 共同開発

# AI搭載高機能パソコン 中小のDX対応 支援



共同開発した高性能パソコン(中央)と、アプライドの宇野常務(左)、アルムの平山社長

【金沢】アルム(金沢市、平山京幸社長)は、アプライドと協業し、自社のマシンングセンター(MC)向け人工知能(AI)搭載機械加工プログラム自動生成ソフトウェア「アルムコード1」専用高性能パソコンを開発、発売した。受注生産で価格は30万円(消費税込み)と従来に比べて2分の1程度に設定。中小製造業に導入しやすくし、製造現場

の自動化とデジタル変革(DX)への対応を支援する。1年で400台の販売を目指す。今回の協業で、アルムはユーザーの多くを占める中小製造業のハードウェア環境の改善を図り、同ソフトの普及を促す。大学・研究機関向けの高機能ハードウェア開発で多くの実績があるアプライドは、製造現場向けの営業強化を目指す。同ソフト専用高性能

パソコンは、画像処理半導体(GPU)に米エヌビディア製を採用。高性能を備えながらも価格を抑えた。ソフトの高度利用に伴うリスク対策として「セキュリティレベルを上げて支援していく」(平山アルム社長)方針。DXが注目される中では「ハードウェアという受け皿の重要性が増している」(宇野敬泰アプライド常務)という。